

日本代表として、日の丸を背負う選手が誕生したのは平成23年（2011年）である。山佐輝がワールドジュニア（U14）アジア・オセアニア予選日本代表の一員に選ばれ、準優勝に貢献した。この年、山佐輝は全国選抜14歳以下でベスト4、全国中学生・中牟田・国民体育大会に出場している。

東日本大震災という未曾有の大災害の影響でトヨタジュニアの開催は中止され、坂田侑加は幻の出場となった。坂田侑加はこの年、全国高校総体・国民体育大会に出場している。

木下恭輔は、全日本ジュニア16歳以下シングルス・ダブルス、全国高校総体に出場し、星稜高校に進学した木村優布子は全国高校総体・全国高校選抜に、金沢高校に進学した若林祐人は全国高校選抜に、国立石川高等専門学校に進学した吉田成は全国高専大会に出場した。

新たな力として台頭してきたのが長根尾江里と後藤慶志。長根尾江里は全日本ジュニア12歳以下シングルス・ダブルス、後藤慶志は全日本ジュニア12歳以下ダブルスに出場を決めた。

国民体育大会には、小松ジュニア出身選手が3名（淀川裕美・坂田侑加・山佐輝）出場するという快挙を遂げた。特に、淀川裕美と坂田侑加は国府台の隣同士での参加となり、公民館には大きな横断幕が掲げられた。



小松市長表敬訪問（2011.4.19 小松市役所）



ワールドジュニア（U14）アジア・オセアニア予選
（2011.5.2 マレーシア・クチン）



第66回国民体育大会「おいでませ山口国体」（2011.10.2）
「チーム石川」選手6名の内3名が小松ジュニア出身者に。



お隣同士が国体出場という快挙
激励の横断幕が掲げられた。

平成24年（2012年）は、高校・高専に進学した選手たちが輝きを増した。

金沢伏見高校の木下恭輔は全国高校総体ダブルス・全日本ジュニア18歳以下シングルス、坂田侑加は全国高校総体シングルスに出場し、国民体育大会ではベスト16入りを果たした。金沢高校の若林祐人は全国高校選抜のメンバーとして活躍した。星稜高校の木村優布子は全国高校総体団体・シングルス・全国高校選抜に出場した。

また、四日市工業高校に進学した山佐輝は、トヨタジュニアベスト16・全日本ジュニア16歳以下シングルス・ダブルス・中牟田全国選抜に出場し、全国高校総体団体・シングルス・全国高校選抜の出場も果たした。全国高校総体団体では1年生ながら第3位のメンバーとして貢献した。



木下恭輔

ファイト溢れるプレーと攻撃的な
テニスが魅力。



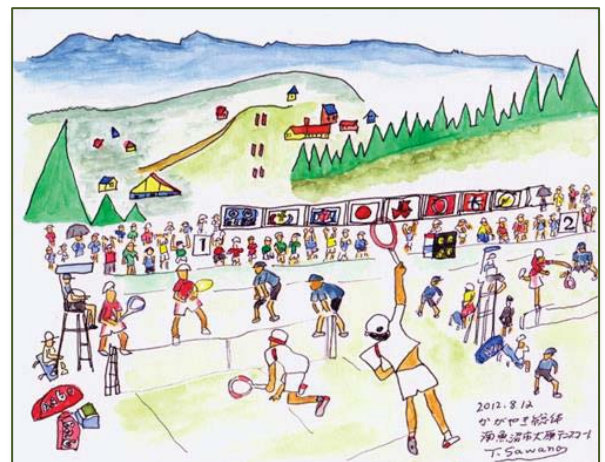
若林祐人

真面目にテニスに取り組み、レギュラー
となった。

<二人は上武大学に進学し、更なる飛躍が期待されている>



2010 沖縄インターハイ



2012 新潟インターハイ

(スケッチ 沢野唯志)

平成25年（2013年）には、長根尾江里が全国選抜ジュニア14歳以下・全日本ジュニア14歳以下シングルス・ダブルスに出場し、後藤慶志は全日本ジュニア14歳以下ダブルスに出場した。

吉田成は全国高専大会で準優勝のメンバーとして活躍し、木村優布子は県高校総体で団体・シングルス・ダブルスの3冠を獲得して全国に駒を進め、国民体育大会にも出場した。

山佐輝はMUFJジュニア（旧トヨタジュニア）ベスト8・全国高校総体では団体・シングルス・ダブルスに出場して団体ベスト8・シングルスベスト16になっている。全日本ジュニア16歳以下では、シングルスベスト16・ダブルスベスト4となり、JOCジュニアオリンピックカップにも出場している。また、国民体育大会5位（三重）全国高校選抜3位という好成績を修め、全国高校ランキングは10位となった。



長根尾江里

恵まれた身体から鋭いショットをくり出し、特にダブルスの能力が高く評価されている。



後藤慶志

バックハンドに威力があり、ダブルスでは勝負強さを発揮して全日本ジュニアに2回出場している。



吉田 成 全国高等専門学校選手権大会団体準優勝。

中心選手として石川工業高等専門学校躍進の原動力となった。

